大田区

潤いとやすらぎのあるまち、大田

～水辺と緑の公園で自然に親しむ～

空港と産業のまち大田区は、その一方で緑あふれる自然や水辺の豊かさが魅力的なまちです。これからの季節、海風に吹かれながらのんびりと磯遊びや水遊びが楽しめる、都内初の区立海浜公園「大森ふるさとの浜辺公園」、ホタルの観賞や幻想的な灯篭流しで水辺の涼に親しめる「洗足池公園」、江戸の昔から人々の往来でにぎわってきた多摩川の橋のある風景について取り上げ、自然豊かな区の魅力を紹介します。

大森海苔のふるさと館では、大森ふるさとの浜辺公園と連携して海苔づくりを行っている。全国屈指の海苔の生産地として名を馳せた、大森の海苔づくりの様子を知ることができる

水辺の自然に親しめるまち

大田区は、高度な技術力を持ったくさんの企業、にぎわいのある商店街や田園調布に代表される美しいまち並み、歴史ある文化財や史跡の数々、手軽に楽しめる多国籍グルメなど、多彩な魅力があふれるまちです。

その一方で、首都東京にありながら、整備された野鳥公園や海浜公園、多摩川や洗足池など緑あふれる自然や水辺の豊かさにも恵まれています。

区内の公園の数は平成27年6月1日現在で全部で560か所。季節の花が自慢の公園や、フィールドアスレチックなど子どもたちに人気の楽しい遊具のある公園などさまざまですが、その中でも、河川や海などの貴重な自然環境を生かした大田区らしい公園を紹介します。

都内初の区立海浜公園 大森ふるさとの浜辺公園

平成19年4月にオープンした「大森ふるさとの浜辺公園」は、砂浜や干潟を持つ都内では初めての区立海浜公園です。江戸の昔から繁栄していた大森の海を次世代に伝える約400mの人工砂浜や干潟、釣磯場があり、また、全長30mの大型すべり台も子どもたちに人気です。天候に恵まれ、大型連休もある4～5月には、来園者はひと月で2万4000人を超えることもあります。

大森海苔のふるさと館に展示されている、最後の海苔船「伊藤丸」。全長13mあり、迫力に圧倒される

開園に至るまでには、数多くの区民参加によるワークショップや報告会などを積み重ねて完成しました。平成19年7月には「大森ふるさとの浜辺公園を育てる会」が発足し、浜辺での磯遊びなどさまざまなイベントを定期的に開催しています。

これからの季節、かつての大森海岸を再現した浜辺で磯遊びを楽しんだり、花の時期には桜やツツジに彩られた園内を散策したり、浜風の薫る公園を満喫してください。広場や売店もあり、家族で気軽に訪れるのにぴったりです。

都内屈指の広さの淡水池 洗足池公園

暑くなるこれからの季節、水辺の涼をとるのにぴったりなのが、「洗足池公園」です。その名のとおり、この公園には北千束の清水窪湧水などを主な水源とする都内屈指の広さを有する淡水の洗足池があり、ボート遊びが楽しめます。

江戸時代、歌川広重の名所江戸百景「千束の池袈裟懸松」にも描かれた水辺の景観の面影を今も残しており、春は桜でにぎわい、夏には水辺を飛び交うトンボなどの姿も見られます。秋には紅葉を満喫することができ、冬は渡り鳥の楽園となります。

散策スポットとしては、水生植物園や、歴史を伝える勝海舟夫妻の墓、「西郷隆盛留魂詩碑」などもおすすめです。

幕末に活躍した政治家、勝海舟は、西郷隆盛との会談のため官軍のおかれた池上本門寺に赴く途中、洗足池畔で憩い、風景に胸をうたれ、その縁でここに別荘を構えたといわれています。建物は戦後に焼失しましたが、海舟の遺言「富士を見ながら土に入りたい」により、当時、池の西側に富士山が見えたため、池のほとりに葬られました。その後、妻である民子の墓は青山墓地から移設されました。

大森の海苔

海苔づくりは今から300年ほど前、江戸時代に始まりました。

当時は、品川から大森周辺の海辺に“ひび”と呼ばれる木を建て、その枝に育つ海苔を摘み取っており、浅瀬の広がる大森周辺は大きな産地として発展しました。

明治以降、各地で海苔づくりが行われるようになりましたが、大田区沿岸の海苔は質・量ともに“本場乾海苔”として全国に誇りました。

昭和37年には東京湾の埋め立てのため生産は中止されましたが、大森周辺には現在も海苔問屋が多く、海苔の流通業の中心となっています。

ここも外せない！ 大森 海苔のふるさと館

大森ふるさとの浜辺公園の隣にある「大森海苔のふるさと館」では、東京湾の一大産業であった海苔づくりの歴史を楽しみながら学ぶことができます。

展示室には、国の重要有形民俗文化財に指定されている、昭和30年代に造船された全長13メートルの最後の海苔船「伊藤丸」が展示され、訪れる人の目を引きます。

また、乾海苔づくりの作業部屋「海苔付け場」の再現展示や、大田区沿岸における海苔産業の歴史をドラマ仕立てで解説する「大田海苔劇場」、海苔を養殖する〝ひび〟を建てるため海苔下駄を履いて振り棒で海底に穴をあける体験ができる「海苔下駄体験コーナー」なども人気です。

また、公園を訪れる人に海苔づくりの様子を知ってもらおうと、実際の浜辺を使って昔の海苔づくりを行っています。海の中に架け渡された海苔網が潮の満ち引きによって現れたり隠れたりする様子を、興味深く見守る人もいます。

約400メートルの人工砂浜
大森ふるさとの浜辺公園

アクセス 京急本線大森町駅下車徒歩12分・平和島駅下車徒歩15分、東京モノレール流通センター駅下車徒歩15分

歴史と風情ある池
洗足池公園

アクセス 東急池上線洗足池駅下車徒歩２分

また、「西郷隆盛留魂詩碑」は、明治10年に戦死した西郷隆盛を悼み、海舟が私費で明治12年に建てた碑です。

池に架かる池月橋の上では、毎年5月の満月に近い夜、「洗足池 春宵の響」と呼ばれる横笛演奏会が開かれます。平成7年、洗足池西岸に三連太鼓橋がしゅん工したのを記念し開始された、洗足池と池月橋の景観に日本の伝統芸能を交えたこの取組は、平成26年度で20回を数えました。毎年7月には、ホタルの観賞会や幻想的な灯篭流しといったイベントも夏の夜を涼やかに彩ります。

大きな橋のある風景 多摩川のあるまち

雄大な多摩川のある風景も、大田区の見どころのひとつです。

山梨県・笠取山を水源とする多摩川は、東京都と神奈川県境を流れ、大田区・羽田で東京湾に注ぎます。下流域に位置する大田区は歴史的に多摩川の恵みを受けて発展してきましたが、多摩川の自然景観は今でも色濃く残っています。

川沿いの四季折々の花と緑、水の情景は訪れる人に憩いのひとときを与えてくれます。田園調布から羽田まで約13㎞の中に、変化に富んだ景色が広がっており、丸子橋から大師橋、そして東京湾へ注ぎこむ河口まで、それぞれの風情があります。丸子橋から羽田空港までのコースを、趣の異なる橋の数々を眺めながら散策するもよし、舗装された河川敷のコースをジョギングするもよし。豊かな自然と美しい景観を持つ多摩川の魅力をぜひ感じてみてください。

平成29年度末開館予定

（仮称）勝海舟記念館

※現在は建物外観のみ公開しています

洗足池公園の東側には、勝海舟夫妻の墓、西郷隆盛留魂詩碑の他に「鳳凰閣（旧清明文庫）」があり、晩年を過ごした勝海舟の生涯に想いを馳せることができます。

区では、平成29年度末に鳳凰閣（旧清明文庫）を（仮称）勝海舟記念館として開館するため、現在整備を進めています。この建物は、勝海舟に関する図書の収集と閲覧や、講堂での講義等を開催するために財団法人清明会により「清明文庫」として建てられ、その後、株式会社学習研究社が利用していたものです。

建築様式については、昭和初期の会館建築のひとつとして貴重な建造物で、正面玄関から立ち上がる4本のネオゴシックスタイルの柱型やアール・デコ調の造作などに特色があります。昭和3年にしゅん工したこの建物は、平成12年に国登録有形文化財建造物として指定されています。今後は、建物の保存・保全と同時に整備事業を進め、地域の歴史文化などの情報発信や区の観光資源として活用していく予定です。

ここも外せない！

富士山がきれいに見えるスポット

都内から富士山が見える場所はだんだん少なくなってきていますが、区内から富士山が見えるスポットはいくつか残っています。多摩川とその近くの丘陵地が富士山が見える主なエリア。大師橋の近くや、ガス橋・多摩川大橋の周辺がおすすめ。

晴れた日は広い川やまち並みの向こうに富士山が顔をのぞかせます。

リバーサイドウォークに

多摩川にかかる橋

丸子橋

ガス橋

多摩川大橋

六郷橋

大師橋

丸子橋 近くには区内最古のトンネルがある。1700年頃には営業をしていたという、江戸に通じる最古の渡し、丸子の渡しがあった。

ガス橋 昭和４年に東京斯株式会社（東京ガス）が川にガスの高圧管を渡した際に地元の要望で歩道橋が設置され、昭和６年に開通した。現在の橋の下部には２本の巨大なガス管が通されている。

多摩川大橋 中世以降、区内で最後まで利用された渡し場、矢口の渡しがあったところ。昭和24年に多摩川大橋が完成するまで利用された。

六郷橋 1600年に家康の命で長さ120間（約220m）の六郷橋が完成したが、度々の水害に遭い８回の流失を経て、大正14年には本格的なコンクリート橋が完成した。

大師橋 昭和14年に橋が完成するまで羽田の渡しがあり、江戸末期には川崎大師や穴守稲荷神社（江戸時代、現在の羽田空港内の場所に建立されていた商売繁盛・家内安全のご利益があるとされ人気の高い神社）への参拝者のほか、野菜や魚介類を運んでいた。